

早明浦ダムだより

発行から1年



早明浦ダム
ホームページ

↑スマホはこちらから

「早明浦ダムだより」を発行し始めて一年となりました。

早明浦ダムで取り組んでいる仕事を地域の皆様へわかりやすくお伝えしていきたいの思いから始めたわけですが、これまでにはダムが持っている洪水調節の役割や冷水温・濁水などの問題点に対する取り組みなどを紹介させていただきました。

また、ダムから水を流す際のサイレンやスピーカー放送が聞こえたときの対応については継続的にお伝えしていきたいと考えています。

限られた紙面で、これらの仕事をわかりやすくお伝えするため、早明浦ダムの職員一人ひとりがいろいろと工夫しながら取り組んでいます。

令和元年7月から12月まで開催された「土佐れいほく博」にお越しいただいた多くの方々の中には、早明浦ダムへも施設見学に来られ、ダムが「四国のいのち」として活躍していることもご理解いただけたことと思っております。

職員一同、早明浦ダムが地域の皆様により一層親しまれるよう努めてまいりますので、引き続きご理解とご協力をお願い致します。

独立行政法人 水資源機構

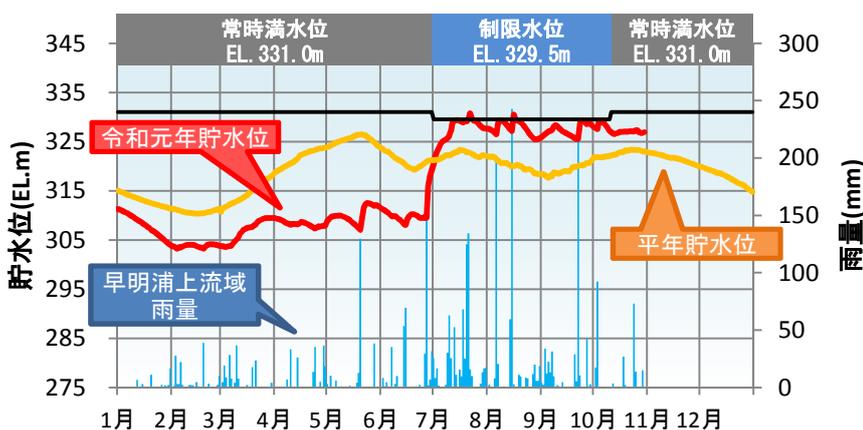
早明浦ダム・高知分水管理所長

小谷口 雅義

2019年（令和元年）これまでの早明浦ダムの記録

■令和元年の早明浦ダムの状況についてご報告します。本年は、冬の降水量が少なかつたことから、早明浦ダムの貯水位は平年を下回り、4月には徳島や香川において取水制限が行われました。さらに梅雨時期に入っても少雨傾向が続いたため、例年になく貯水位が低い状況となり、6月末まで取水制限が続きました。

早明浦ダムの年間貯水位曲線（令和元年10月末現在）



No.	出水要因	洪水調節期間	最大流入量	最大放流量
1	前線	6月27日	900 m ³ /s	0 m ³ /s
2	前線	7月21日	1,529 m ³ /s	1,021 m ³ /s
3	台風8号	8月6日～7日	1,046 m ³ /s	785 m ³ /s
4	台風10号	8月15日	1,590 m ³ /s	1,037 m ³ /s
5	台風17号	9月22日～23日	1,203 m ³ /s	807 m ³ /s

※最大流入量と最大放流量の差がダムに貯めた量です



貯水位が最も低くなった時
(2月19日)

貯水位が最も高くなった時
(7月22日)

■6月末にはまとまった降雨があり、貯水位は徐々に回復しました。その後、9月までに前線と台風による出水のため、計5回の洪水調節を実施しました。これにより昭和50年の管理開始以降、早明浦ダムの洪水調節回数は116回となり、平均の2～3回に対し、本年は中規模の洪水が数多く発生した年といえそうです。

■早明浦ダムでは、平成30年7月の豪雨災害をきっかけに、関係機関や一般の方々へ、「よりわかりやすい情報提供」を目指して見直しを行い、関係機関並びに自主防災組織等への説明を実施してまいりました。嶺北地域の防災組織の方で、説明を希望の方はダム管理所まで連絡ください。

■今後も、安全・確実なダム操作を行ってまいりますので、引き続きご理解とご協力をお願い致します。

施設見学の申し込みは、随時受け付けています！詳しくは、早明浦ダムのホームページかダム管理所（Tel0887-82-0485）まで連絡ください。

◇◇早明浦ダム再生事業推進室より◇◇

地質調査、環境調査の進捗状況について

早明浦ダム再生事業では、新しい設備の設計に必要な詳しい地質の情報を確認するため、地質調査（ボーリング調査）を実施しています。昨年度からこれまでに15の地点で調査を行いました。調査により、硬い岩盤があることが確認できています（参考…左上の写真）。ボーリング調査は点の情報のため、今後、面の情報として総合的に解析を進めていきます。

また、工事による環境への影響を予測するため、現状の様子を確認する環境調査を実施しました。降下ばいじん、風向風速、騒音振動など暮らしに関わるもののほか、哺乳類や鳥類、植物や魚類などについても調査を行いました。今後、これらの調査結果を使って、工事による影響について予測、評価を行うこととしています。

まだ工事は始まっていませんが、着々と準備を進めていきますので、引き続き、ご理解とご協力をお願いいたします。



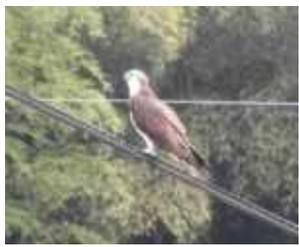
ダム下流のボーリング調査で確認された岩盤の様子



左：風向風速の調査



右上：確認されたアユ



右下：確認されたミサゴ

～ 緑のダム ～

【一般的な緑のダムイメージ】



山林は、豊富な水を蓄えることから「緑のダム」と言われています。間伐などの山林整備が行われていないと山林の保水力が少なくなり、山腹崩壊、流木・土砂等の流出につながります。

そこで、早明浦ダムでは、「水源の森整備」と称して貯水池周辺樹木の伐採を定期的に行っています。この作業による伐採は僅かですが、森林整備が大変な作業であることを職員が学ぶ場としても活用しています。

また、10月14日には今年で9回目となる「森の健康診断」が開催されました。森の健康診断は、植林された山林を対象に樹木の本数・高さ・太さなどを調べ山林の状況を知ること

を目的に土佐町と大川村の山林で実施されました。当日は高知県、徳島県、香川県などから約70名が参加しました。

参加者からは、「適切に間伐整備されていると思ったが、もっと間伐が必要なのか」と驚きの声が聞かれました。

「森の健康診断」を通じて山林の現状を知って頂く場となっています。

★★★ダム知識 Information★★★